

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和5年度戸塚区地域づくり大学校				
事業の実施者	団体等	NPO法人くみんネットワークとつか（とつか区民活動センター） 戸塚区社会福祉協議会			
	行政	横浜市戸塚区区政推進課			
事業の目的	地域で活動する区民と区職員がともに本事業で学ぶことで、地域のさまざまな問題を協力し合いながら解決していく「自治の力」の向上を目指し、「住みたくなる・住み続けたくなる」と思える地域づくりにともに取り組むための場を提供し、地域づくりへの関心を高め、住んでいて良かったと思える地域を実現する手法を学びます。				
事業の内容	講座（全4講）を開催し、地域での活動事例の紹介や、活動現場の訪問・まち歩きを通じて活動プランを作成する。				
役割及び責任 分担等		項目	NPO法人くみんネットワークとつか （とつか区民活動センター）	戸塚区社会福祉協議会	横浜市
	企画、連絡調整	企画、講師等との連絡調整	企画、連絡調整補助	企画、連絡調整補助	
	会計経理	出納管理、経費執行管理			
	広報、受講者募集	広報物の作成、広報	広報	広報、申込受付	
	運営及び準備	運営監理、ワーク支援等	運営補助、ワーク支援	運営補助、ワーク支援	
	記録、報告書の作成	記録、報告書の作成	記録	記録	
	受講生のフォロー	受講生のフォロー、 OB・OG会の育成支援	受講生のフォロー	受講生のフォロー	
	実施期間	令和5年6月22日から令和6年3月31日			

記入日	令和 6 年 3 月 27 日		
	・団体等名：	NPO法人くみんネットワークとつか （とつか区民活動センター）	
	・記入責任者（連絡先）	中嶋 伴子（045-825-6773）	
	・団体等名：	戸塚区社会福祉協議会	
	・記入責任者（連絡先）	住原 実夏（045-866-8434）	
	[行政]	横浜市戸塚区役所	
	・部署名：	区政推進課	
	・記入責任者（連絡先）	中上 清文（045-866-8328）	

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・3者の地域支援に関する情報やノウハウを活かしながら、計画内容を協議することができた。・3者で実施内容の検討・打合せを行うことで事業の目的を共有し、講座の計画づくりに活かした。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の状況も変わって、対面での講座内容を基本に計画したが、今後はデジタルを活用した内容を一部取り入れることも考えながら計画づくりを進めていくことも必要かもしれない。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・計画から3者で協議を重ねたことで事業の目的を捉え、適切な構成や資料の提供などをしながら各講を実施することができた。・人材育成の講座ではやはり対面がポイントとなること、また、受講生が負担と感じないような講座内容を構築していくことが重要である。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・今年度は、午前の活動現場訪問にまち歩きを加え、午後からワークを実施したが、ワークのメニューを絞っても良かった。・実施会場が主に区役所であったことから、区民活動センターや区社会福祉協議会を身近に感じてもらえるように業務内容等の告知の時間をとって良かった。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
<ul style="list-style-type: none">・受講生のアンケート結果からも、講座内容にほぼ満足が得られており、「地域の活動に触れ、関心を高める。」、「地域活動の継続への自信」などの事業の成果が得られた。・自治会町内会の活動内容などを講座に加えたことで、地域における自治会町内会の活動の理解もつながった。・受講生の連絡用グループの告知をしたことで、講座後にも受講生同士が交流し、地域活動に取り組んでいく動きが生まれた。
自由記入欄
<ul style="list-style-type: none">・立場が異なる3者が、地域の担い手づくりに向けて連携・協働して取り組むことは重要であり、また3者で地域課題を共有する場にもつながっている。